

令和7年度 校内研究計画

滝沢市立姥屋敷小・中学校 研究部

Ⅰ 研究主題

自ら学び、進んで伝えあう児童生徒の育成
～極小規模・複式・併設校の特色を生かした、思考力・判断力・表現力を高める授業を通して～

2 研究主題設定の理由

平成29年3月に告示された「小学校学習指導要領」並びに「中学校学習指導要領」の第1章の「総則」で、「各学校において、『基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。』」、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。」と示されている。

それらを受け、本校では「いわての授業づくり3つの視点」、「ユニバーサルデザインの視点」「ICT活用の視点」を校内研究に位置付け、令和4年度から「自ら学びを進める児童・生徒の育成」に取り組んできた。その結果、児童・生徒が主体的に学習に取り組み、基礎的・基本的な知識や技能を身につけてきている。このことは、各種学力調査（NRT、県学調、全国学調等）の正答率の結果にも反映されている。

しかしながら、上記の各種学力調査における「応用力が必要な問題」、「自分の考えを説明する問題」、「複数の資料を比較して答えを導き出す問題」、「情報を選び、構成を考えて話す問題」「情報を選び、構成を考えて書く問題」等の正答率が、全国や県の正答率と比べ低い傾向にある。また、本校の児童生徒は、極小規模校のため、授業の中で多様な考えにふれたり、多くの友達に伝わるように話したりする経験が少ない。そのため、聞き手に伝わるよう、感じ取ったことを表現したり考えたことを説明したりすることを苦手とする児童生徒が多い。さらに、令和6年度の児童・生徒に学習に対するアンケート項目で『学習でどのような力を伸ばしたいか（複数回答）』に対して、コミュニケーション能力（説明力、話す力、意見を出す、共感力）を身につけたい、高めたい』という考えを持つ生徒が全体の50%、『読解力（語彙力（漢字が書ける・読めるようになりたい）・理解力・知識）を身につけたい、高めたい』という考えを持つ生徒が50%という結果であった。

これらの結果と学習指導要領に示されている「未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』を育成すること」、また、学習の基盤となる「『話すこと』『書くこと』の言語能力育成すること」は本校児童・生徒にさらに必要な資質・能力と捉え、令和7年度の研究主題を「自ら学び、進んで伝えあう児童生徒の育成」とし、副主題を「極小規模・複式・併設校の特色を生かした思考力・判断力・表現力を高める授業を通して」とした。

「極小規模の特色」は、個に応じた支援と活動時間の確保が十分にできること。「複式の特色」は、間接指導の時間を自らの学びの時間に生かしたり異学年の学びによる復習、次の学年の学習のつながりを知ることができたりすること。「併設校の特色」は、中学校教師による乗り入れ授業を

行うことで次の3つの良さが考えられること。①小学生として教科担任制の授業を受けられる。②専科の先生から授業を受けていることで中学生に進学後、中1ギャップへの心配が少ない。③指導者側として系統性を持った授業を行い、且つ児童・生徒の学びを把握できることで個別最適な指導につなげ取り組むことができる。

極小規模・複式・併設校の特色を教師が理解し、生かした指導を行うことで、「未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力』」、学習の基盤となる「話すこと」「書くこと」の力を高め、自ら学び共に学びを進める児童生徒の育成につながると考え研究主題を設定した。

3 研究の目標

極小規模・複式・併設校のよさを生かした思考力・判断力・表現力を高める授業を通して、自ら学び、進んで伝え合う児童生徒を育成する。

	9年間を見通した児童生徒像
小 低学年	課題に対し、自分の考えをはっきりもち、伝えたい事柄を表現できる児童
小 中学年	課題に対し、根拠のある予想や仮説から、必要な事柄を選んで表現できる児童
小 高学年	課題に対し、集めた材料を分類したり関係付けたりし、より妥当な考えを表現できる児童
中学生	課題に対し、自分の立場や考えを明確にし、多様な考えを想定しながら材料を整理し、分かりやすく表現できる生徒

4 研究の仮説

本校の特色や振り返りを生かした授業で、「話す力」「書く力」を育てることで、児童・生徒の思考力・判断力・表現力が高まり、自ら学び、進んで伝えあう児童生徒が育成されるだろう。

<学習の基盤となる「話す力」「書く力」について身に付けさせたい力>

小 低学年	伝えたいことを決めて、事柄の順序に沿って話したり書いたりする。
小 中学年	伝えたいことの中心を明確にして、理由をつけて話したり書いたりする。
小 高学年	事実と感想、意見を区別するなど、構成を考えて話したり書いたりする。
中学生	相手を説得できるように、論理の展開などを考えて話したり書いたりする。

5 今年度の研究内容

<研究の柱>

- (1) 極小規模、複式、併設校の特色を生かした授業
- (2) 振り返りを生かした授業

<学びを支える力>

- (3) 話す書く聞く読む力→新聞を生かした活動
- (4) 読む力→読書の推進
- (5) 基礎基本の定着→宿題・家庭学習の工夫

(1) 極小規模、複式、併設校の特色を生かした授業

① 極小規模の特色を生かして

- ・個に応じた支援計画…自学の場面の躰きを予想し、個に応じた支援や助言を計画する。
- ・考える時間の確保…学級の人数が少ないことによって生まれる時間の余裕を生かして、個別にじっくり考える時間を確保する。
- ・ICTの活用…インターネットや指導者のデジタル教科書などを効果的に活用し学びを広げる。

② 複式指導の特色を生かして

- ・間接指導の時間を生かす…課題に対して、自ら学びを進める力をつける。
- ・異学年の学びを知る…自分たちの学習のつながりや発展を知る。
- ・学びあう…上学年と下学年の交流により、教わることで学び、教えることで学ぶ。

③ 併設校の特色を生かして

- ・中学校教諭による小学校への乗り入れ授業

小学生…多くの先生から学ぶことができ、中学校の教科担任制の授業につなげることができる。

中学生…同じ先生から続けて教えてもらうことができるため、中一ギャップの心配が少ない。

指導者…小学生のうちから、一人一人の学びの様子を把握することができ、中学での指導に生かすことができる。

- ・学習規律の統一…全校で「学習のきまり」を徹底し、学習環境を整える。

	学習のきまり
学習準備	・授業が始まる2分前には席に着く。 ・始めと終わりのあいさつを行う。 ・終わりのあいさつのあと、授業道具をしまい、次の学習の準備をする。
学習中	・必要のないもの出さず、机上进行して学習する。 (小：教科書・ノート・下敷き・鉛筆・消しゴム・赤青ペン・定規を準備する。筆箱は机に出さない。) (小：挙手しての発言の場面では、起立して椅子をしまい発言する)
ノート	・課題は青線、まとめは赤線で囲む。 ・振り返りは㊟とする。 (小：ノートに書くときは、下じきを使う。日付と曜日を書く。)

(2) 振り返りを生かした授業

①振り返りのねらい

- ・ 本時の授業内容をまとめる。
- ・ 自分の課題（問い）の到達度を自覚し、意欲を高める。
- ・ 本時の学びや次時の学びを広げる。

②「問い」と「振り返り」

- ・ 共通の課題を設定した上で、個別の「問い」を持つ。

※個別の「問い」とは…具体的な疑問、課題に迫るための方法、本時を通してつきたい力 など

「単元を通した自分の目標」及び「本時の自分のめあて」

- ・ 「問い」を持つことで、「振り返り」の意味を持たせ、学習への意欲を高める。

③振り返りの形式

方法	具体的な取り組み	ねらい
話す	・ 対話形式で振り返る。 ・ 代表数名が、全体に発表する。 ・ 全員が、全体に発表する。	・ 短時間で振り返られる。 ・ 相手を意識できる。 ・ 考えをまとめて話す力をつけることができる。
ノートに書く	・ 振り返りの観点を決めて書かせる。→ ・ 観点を示さずに書かせる。→	・ 振り返るポイントが明確になり書きやすい。 ・ 児童生徒の記述から、よい着眼点を紹介することで、振り返りの観点を広げる。 ・ 書きためることにより、単元内の学びの変容がみえる。 ・ 書くことで、考えをまとめることができる。
タブレットに打ち込む	・ ロイロノートに教科ごと「単元の振り返り」のノートを作り、単元の導入とまとめの振り返りを打ち込む。	・ 単元のめあてと照らし合わせて学習を振り返ることができる。 ・ 打ち込むことで、具体的に長文で書くことができる。 ・ 1年間の学びの足あとがみえる。

④ 振り返りの生かし方

学習者 ・ 本時の学びを確認する。

- ・ 分からないところやできなかったところを明確にする。
- ・ 新たな問いや課題を意識する。
- ・ 学習後の思いを言語化することで、表現力を養う。

指導者 ・ 児童生徒の理解の様子を把握する。

- ・ 振り返りの視点のよさや次の学習につながる意見などを紹介し、次時への意欲付けとする。

(3) 新聞を生かした活動

① ねらい

読む… 読んで内容を理解する。

新聞記事から、社会事象について等の視野を広げる。

未修の漢字を読んだり語彙を増やしたりする。

書く話す…記事の要旨をまとめて、話したり書いたりする。

制限内（文字数、時間）でまとめる力をつける。

自分の考えをもち、相手に伝える。

友達の発表を聞く力をつける。

聞く… 相手の話を、心で聞く力をつける。

② 内容（読む・書く）

低学年

ジュニアウイークリーなどの新聞記事を紹介する。

- ・学習や子ども達の話題とつながる記事を紹介し、興味を広げる。

中学年

ジュニアウイークリーを各自に配布し、スクラップブックを作成する。

- ・火曜日朝学習で、ジュニアウイークリーを読む
→選んだ記事又は担任に指定された記事を切り抜き、スクラップブックに貼る。
- ・朝の会「スピーチ」のコーナーで、記事について話す。【話す力】【聞く力】
- ・2学期から、記事にコメント（記事の内容、思ったこと）を入れる。【書く力】

小5～中3

+日報を読み、ロイロノートにまとめる。

小→・毎週火曜日の朝学習やすきま時間に新聞を読む。

- ・朝の会の「スピーチ」のコーナーで、記事について話す。

- ・宿題で指定された記事や自分で選んだ記事についてのコメント（記事の内容、意見）をロイロノートに打ち込み、提出する。

中→・読書以外の朝学習で+日報を読み、ロイロノートにまとめ発表する。

③ 内容（聞く）

- ・「よい聞き手」を目指した日常の指導

※よい聞き手とは … 相手の話を心で聞く＝しっかり考えながら聞くこと。

よい聞き手の姿 「見て聞く」「うなずきながら聞く」

「意見をもちながら聞く」

(4) 読書の推進

① ねらい

- ・本の世界にひたり、知識を増やし想像力を育む。
- ・読む力をつける。
- ・読むことを楽しむ。

② 内容

- ・読書時間の確保 小：月・金の朝学習、週末読書、家庭での10分間読書
中：週に一回の朝学習（きめ細やかが決まり次第曜日を設定）
朝学習時、新聞を読んだ後に読書
- ・必読（推薦）図書の設定
- ・長期休業の読書カード
- ・読み聞かせの計画的実施

(5) 宿題・家庭学習の工夫

① ねらい

- ・基礎的学力の定着
- ・目標をもった家庭学習

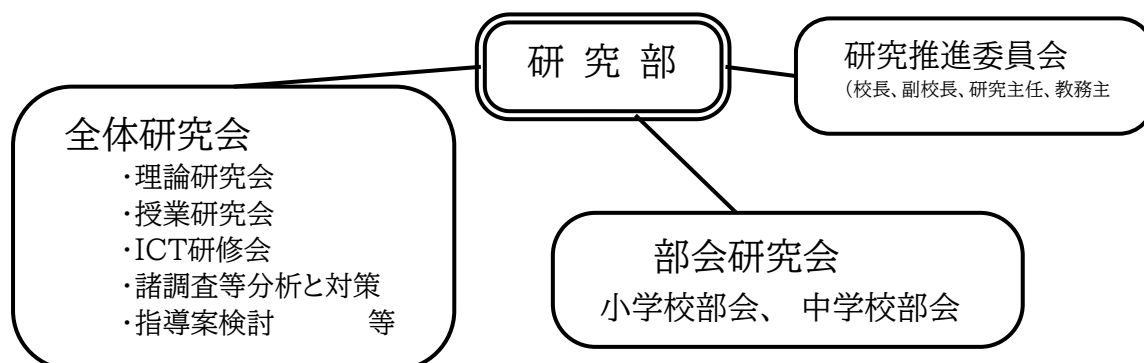
② 内容

	内容	ねらい
小低	音読、形成プリント、日記 ひらがな・カタカナ・漢字練習	・家庭学習の習慣を身につける。 ・ていねいに書く。 ・基礎基本の定着を図る。
小中	音読、ドリル、 ミニテストに向けての課題 一人勉強	・家庭学習の習慣を身につける。 ・テストに向けた学習の仕方を身に付ける。 ・基礎基本の定着を図る。
小高	読書、ドリル、新聞 ミニテストに向けての一人勉強	・家庭学習の習慣を身につける。 ・ミニテストに向けての自主学習ができる。 ・新聞を使って読んだり書いたりする力をつける ・基礎基本の定着を図る。
中学	家庭学習（一人勉強） 各教科からの課題	・基礎基本の定着を図る ・家庭学習の習慣を身につける。 ・学力向上を目指す。

6 研究の年次計画

- (1) 令和4年度…「思考力・判断力・表現力」を高めるための授業改善の在り方、柳沢小中学校との連携（互見授業、研究授業の交流や参加）
- (2) 令和5年度…「思考力・判断力・表現力」（話すこと・書くこと）を高めるための授業改善の在り方、柳沢小中学校との連携（研究の方向性の確認、互見授業や研究授業の交流や参加）
- (3) 令和6年度…令和4～5年度の研究を踏まえた「思考力・判断力・表現力」を高めるための授業実践、柳沢小中学校との連携（授業教科、日程等の擦り合わせ）
- (4) 令和7年度…令和6年度の実践の改善（学校公開）、研究の検証、研究のまとめ、柳沢小中学校との連携（紀要、まとめ）
- (5) 令和8年度…令和6～7年度の研究を踏まえ、さらに高めるための理論研修及び授業実践

7 研究組織



8 年間計画

(変更の場合有)

	行事	諸調査と分析	研究全体
4月	8日 始業式・入学式 16日 授業参観 22～24日 中修学旅行	10日 小4・6、中2NRT 10日 小5知能検査 17日 小6・中3全国学調 18日 全国学調質問紙	1日 校内研①新年度計画 26日 管内研究主任研
5月	17日 運動会	☆児童生徒 学習アンケート	1日 校内研②（全体授業研1）小 29日 校内研③（全体授業研2）中
6月	5～6日 小修学旅行 14～15日 地区中総体 市教研		12日 校内研④（全体授業研3）小
7月	1日 小陸上記録会 1～3日 中期末テスト 県中総体 25日 終業式	☆分析作業（4月分諸調査）	10日 校内研⑤（全体授業研4）中 17日 校内研⑥（全体授業研5）中
8月	21日 始業式 21日 中実力テスト 25～9/22日 中教育実習		☆公開指導案作成
9月	11日 小社会科見学 13～14日 地区新人戦 22～26日 中間テスト		☆指導案検討 9日 互見授業①
10月	11日 文化祭 16日 地区中文祭 24日 漢字検定 29日 学校公開研究会	1日 小5・中2県学調	2日 互見授業②
11月	6日 市音楽会 10日 道徳参観・ 家庭教育学級 15～16日 県新人戦 19日 アナウンス講習会 25～28日 中期末テスト		20日 校内研⑦（学校公開反省）
12月	24日 終業式	☆分析作業（県学調）	24日 校内研⑧（年度末反省）
1月	14日 始業式 14日 中実力テスト 30日 スキー教室	☆児童生徒学習アンケート	28日 市研究主任研
2月	卒業を祝う会 16～20日 期末テスト		16日 研究推進委員会 26日 新年度計画
3月	4～5日 公立入試 12日 卒業式 19日 修了式		

※このほか、現職研修後の伝達講習会を、職員会議時に随時行う。

9 「活動のあしあと」掲示計画

(1) ねらい

- ・活動の目標と反省を見合い、各学年の活動の様子を知ること、自分の経験してきたことを振り返ったり、これから経験することをイメージしたりする。
- ・全校児童生徒の掲示をすることで、下学年が書き方や内容について学ぶ。

(2) 内容

- ・主に、行事に向けての目標と反省を体育館入り口わき掲示板に掲示する。
- ・長期休業明けには、図書館教育で取り組んでいる読書カードを掲示する

(3) 掲示計画

	小1、2	小(3)、4	小5、6	中学生
4月	「どうぞよろしく」 (名前と好きな絵)	今年度の目標		
5月	たのしかった 運動会(絵)	運動会		
6月	プール	水泳	修学旅行・陸上記録会	(クラスで設定)
7月	夏休み			
8月	夏休み読書カード			
9月	社会科見学			(クラスで設定)
10月	文化祭・(市音学会)		文化祭・(中文祭)	
11月	(クラスで設定)			
12月	冬休み			
1月	冬休み読書カード			
2月	卒業を祝う会			
3月	いちばんがんばったこと		今年成長できたこと	